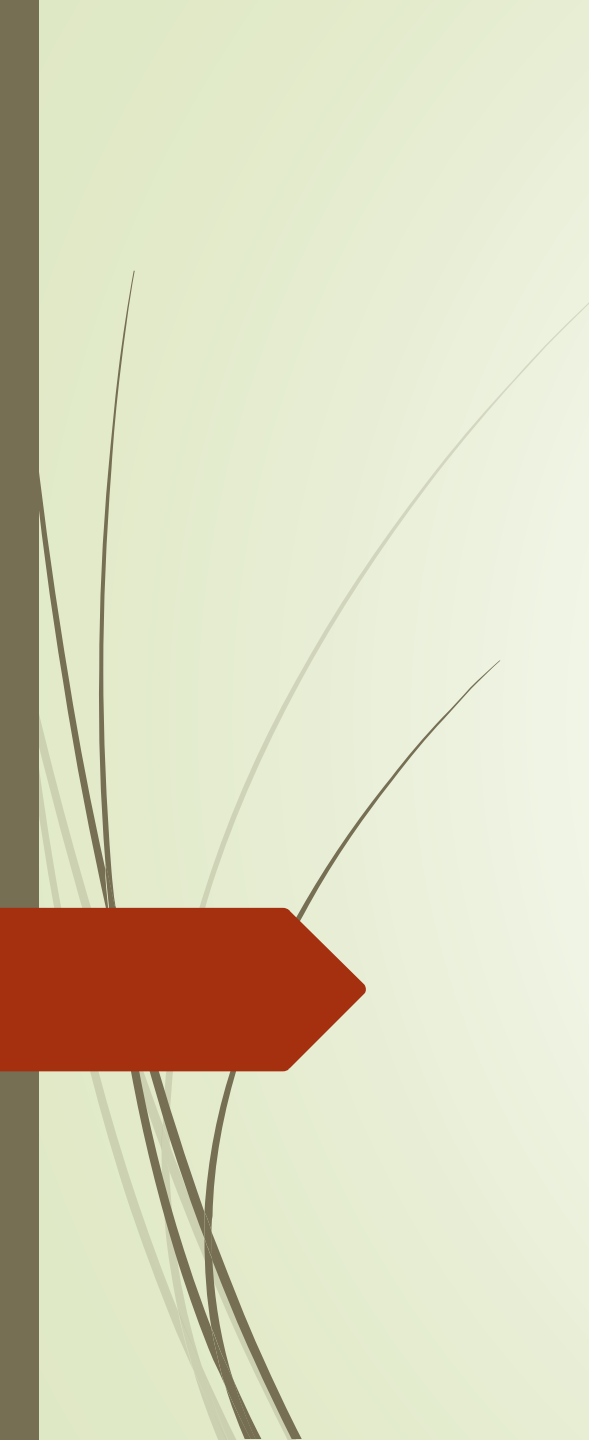


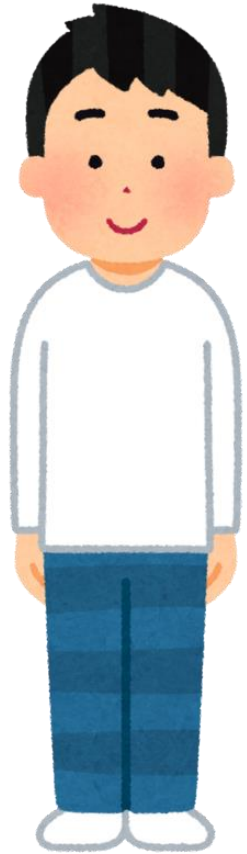


事業所コンサルテーションの事例報告

横浜市発達障害者支援センター

発達障害者地域支援マネジャー 赤津 千明

Aさんの紹介



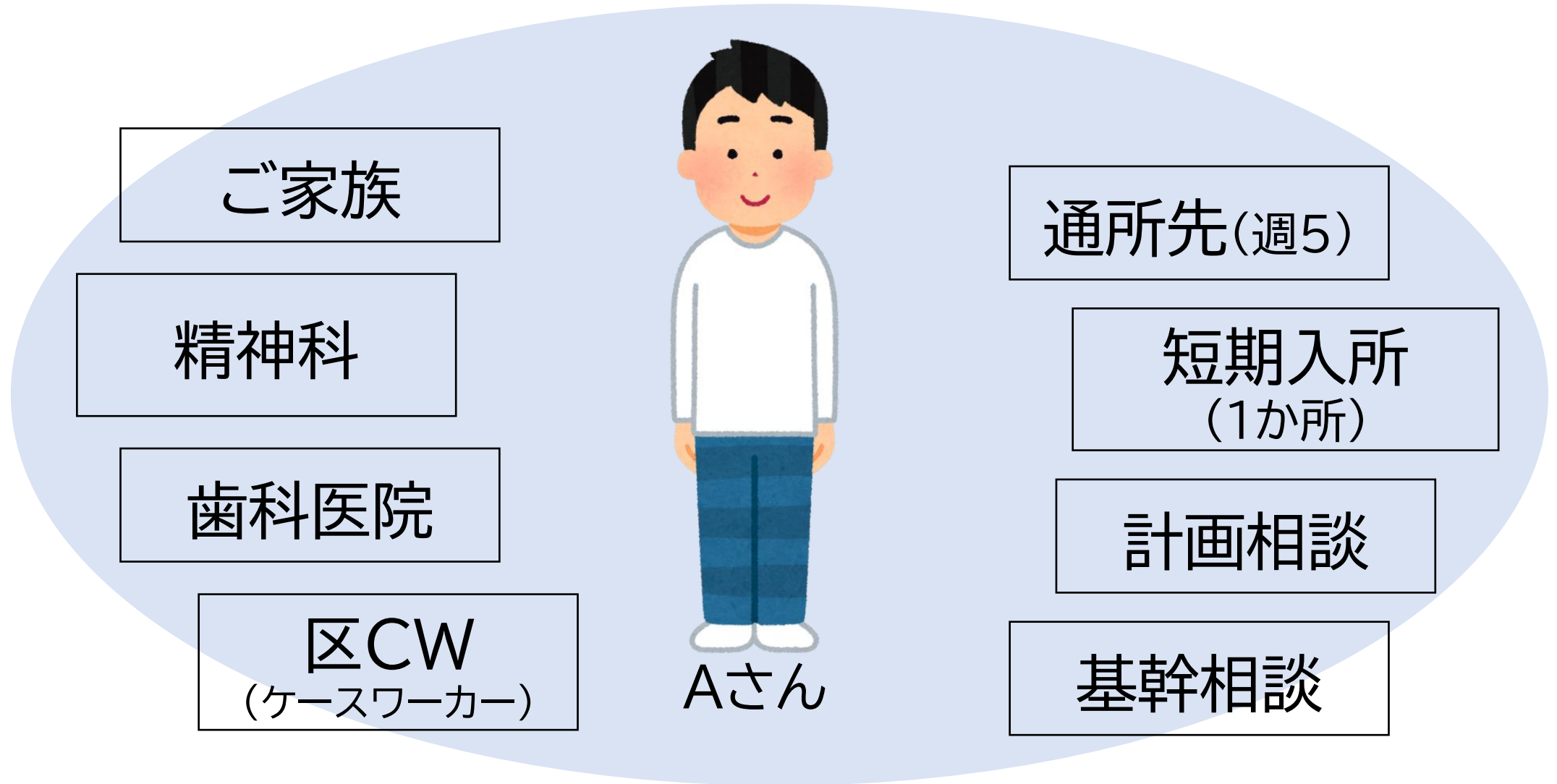
Aさん

- ・男性
- ・33歳
- ・両親と同居
- ・自閉スペクトラム症
- ・療育手帳:A1
- ・障害支援区分:6
- ・強度行動障害
- ・生活介護事業所通所

<生活状況>

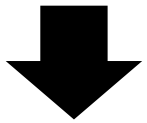
- ・卒後、現在の通所先に15年程通っている
- ・通所はするが、車内で終日過ごしている
- ・自宅では本人主導の生活スタイルとなっている
- ・体重も増加するが、検診等も受けられず

Aさんの周りの環境



【チーム内での課題】

- ・通所先にて、終日車内で過ごしている状態。
(学生時代からも同様の様子あり)
- ・車から降りれるようアプローチを試みるが上手く行かず。
- ・10年以上この生活が続いており今後の見通しが立たない。
- ・まだまだ若いAさんに対しこのままで良いのだろうか。



横浜市発達障害者支援センター(発達障害者地域支援マネジャー)への相談

＊チーム内の基幹相談員が過去に協働事例あり

相談受付からの動き

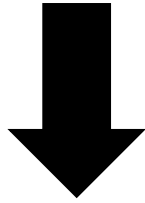
■ インテーク

- ・日中通所先の事業所へ訪問
- ・現状の聞き取り(経過・課題について確認)

■ 支援者会議への参加

- ・支援チームとして加わる
- ・日中事業所のみではなく、チームとしての情報共有
- ・支援の方向性の確認

■直接アセスメントの実施



<アセスメントから分かったこと>

- ・同一性の保持が強い
- ・話し言葉を中心とした関わりで、混乱を起こすことがある
- ・視覚情報の理解に優れている
- ・立体(実物)の理解に優れている
- ・作業工程はシンプルに、1工程が理想
- ・食べ物や飲み物への動機あり

- ・アセスメントの結果をチームに共有
- ・アセスメント結果を踏まえ、今後の支援の方向性をチームで検討

Aさんの支援プランとして



計画相談を中心に本人、家族、支援者にて共有

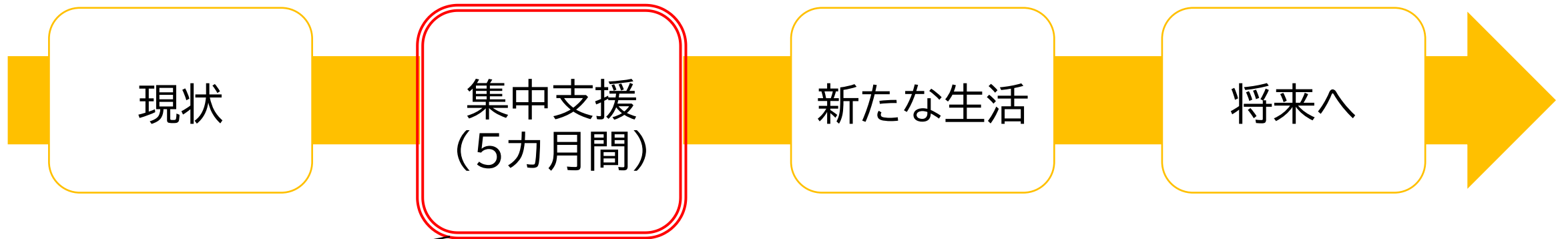
集中支援を行う場として、ミドルステイモデル事業を活用

*ミドルステイモデル事業とは？

横浜市独自の取り組み。

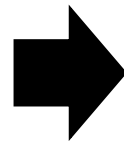
短期入所事業を使つてのアセスメント等を目的としたモデル事業。

集中支援での取り組み



【集中支援で期待される事】

- ・車以外での過ごし方の確立
- ・自分で始めて自分で終わる仕組み(アクティビティシステム)の学び
- ・次の支援者への引き継ぎ(学び)
- ・生活スキルの再アセスメント
- ・新生活に向けての環境の提案



集中支援後の生活の維持、発展も意識したチーム作りも重要
★先を意識した集中支援がポイント

集中支援での取り組み

☆自分で始めて自分で終わる仕組み(アクティビティシステム)の学び

<提示に関して>

【写真等のカードよりも立体物の着目が良い】という事前アセスメント情報から、
具体物で活動を提示

例



活動シンボル



休憩シンボル



排泄シンボル

集中支援での取り組み

☆自分で始めて自分で終わる仕組み(アクティビティシステム)の学び

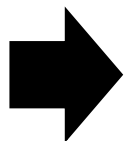
<行動に関して>

全ての行動前に【活動】を挟む事で、行動開始のパターンを分かりやすくする

例



活動シンボル

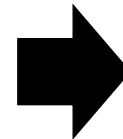


食事シンボル

活動をしたら、食事



活動シンボル



休憩シンボル

活動をしたら、休憩

集中支援での取り組み

☆自分で始めて自分で終わる仕組み(アクティビティシステム)の学び

<作業に関して>

- ・座作業による自立課題を中心とし、左から右に動きの流れを作り分かりやすく
- ・終わったらフィニッシュBOXへ入れ、次の指示が提示される流れ



- ・作業はプットインのようなストレスが低そうなものから
- ・机上の作業1種を終わったら終了の分かりやすさ
- ・フィニッシュBOXに課題を入れたら目につく場所に次の指示シンボルを提示
- ・周りが気にならないよう作業机は壁側に

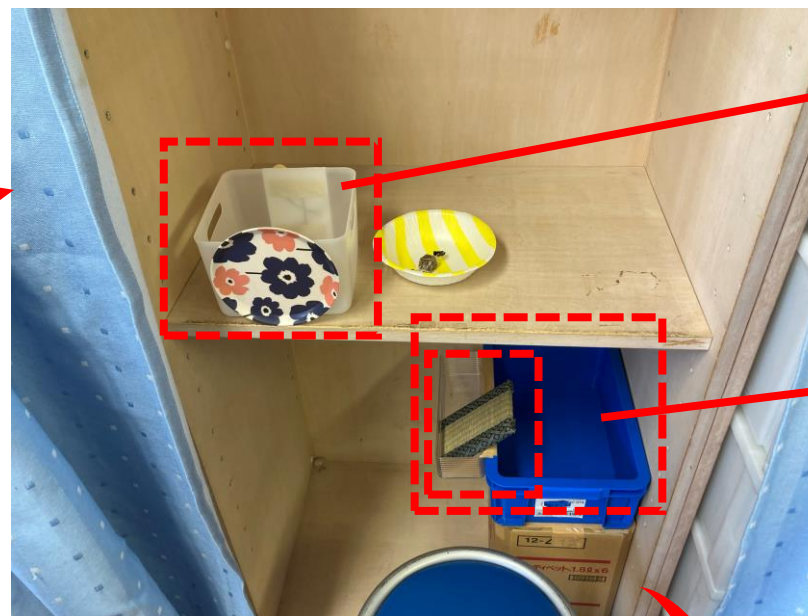
*参考として



【作業シンボル】
活動の合図になります。
このボールをここにマッ
チングします。

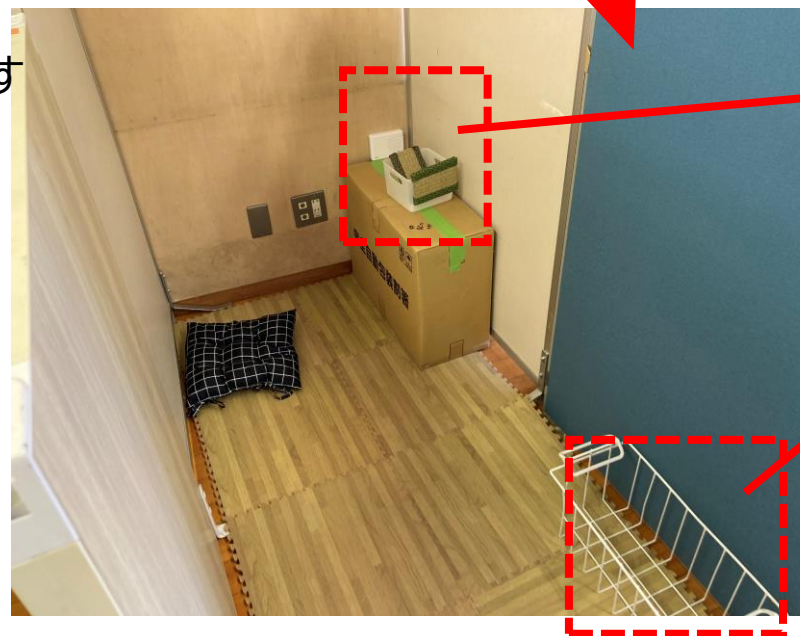
【フィニッシュBOX】
ここに自立課題を入
れたら右の皿を取って次
の活動に向かいます。

チャイムを鳴らす



【おやつ/お茶】
おやつ・お茶の場所にな
ります。

【フィニッシュBOX】
おやつの皿を入れたら
左のたたみの指示を取
り休憩場へ



【休憩シンボル】
休憩の場所になります。
また隣に作業シンボル
が置いてあります

【サンダル入れ】
休憩時に脱いだサン
ダルを入れます。

集中支援での取り組み

☆生活スキルの再アセスメント

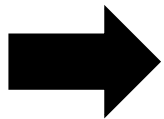
項目	入居前(自宅にて)	入居1か月後	入居4か月後
食事	・3食しっかり食べるタイプではない。 ・白米等よりもおかずを好む。おかず類をたくさん食べていた。 ・食事以外におやつ等も多く食べていた。	・場所によって食べる、食べないを決めている。ユニットでは白米は食べず(パン、麺類はOK)。 - 作業棟では白米(ふりかけ有)に限らずほぼ完食(白米量も400gに設定)。 ・汁物はどこでも飲まず。他の水分(お茶、牛乳、コーヒー、ヨーグルト等)は何れもOK。	・場所によって食べる物、食べ方に違いあり。 - 例)食堂ではほぼ完食する。スプーンも要所で使うが自室では手づかみで食べたがる、等。
排泄	・毎日排便あり。付き添いはせず、排便後は拭き取り依頼あり。 ・ペーパーを多量に使う傾向あり(残り少ないと使い切る等)	・食事量、環境の変化も相まって便秘になってしまう。1w程経ったところで下剤使用。 ・食事提供の工夫(昼の食事量の増量、補食購入)によって数日置きの排便リズムとなってくる。 ・排便時に便を触ってしまう事が課題。	・毎日の排便はないが、体調を崩す程の便秘はない(2～5日程の間隔)。 ※下剤も使わず。 ・肛門部を触ってしまう事は続いている。 ※スムーズに排便する事もあれば、指で出そうとする事も。
睡眠	・21時頃～6時頃までの睡眠。 ・夜間起きだし、カーテンを開ける、閉める等のルーチンあり。	・入居初日からしっかり寝れている。 ・いびきは大きい。また、無呼吸症候群のような様子あり。	・21～22時頃から5～6時までの睡眠。不眠の様子なし。
入浴	・ボディソープやタオルをたくさん使う、等の固執あり。	・小ボトルを使いシャンプー、ボディソープの量を調整。自身で洗髪可。洗体は仕上げ必要だが拒否なし。 ・拭き取りも自身で行なう。仕上げ介入も拒否無し。	・様子変化なし。

集中支援で見えてきたこと

☆新生活に向けての環境検討

・住まい
・通所先
の
環境検討

- ・場所が変わっても同じ支援方法により安心して過ごせる
- ・特定の職員を気にする様子はない。
- ・不調時の発声等はある。防音対策は必要かもしれない。
- ・不眠等、生活リズムの崩れはない。
- ・シンボルへの強い着目は図れず人の動きを頼りにする部分もある。
- ・新規場面での吸収は良いが、導入から3度目の動きまでにはアレンジを加えがち。導入前の準備、導入直後の指示だしも重要。
- ・同一性の保持の傾向あり。



ここまでを踏まえ、
【重度訪問介護を利用した单身生活】【新規通所先】を目指す事が決定
＊個の支援環境が担保しやすい单身生活
＊心機一転、別の通所先でのリスタート

新生活に向けて チーム内での役割分担

☆【重度訪問介護を利用した单身生活】【新規通所先】を目指すために

重度訪問介護を利用した单身生活

- ・重度訪問介護の支給及び事業所探し
- ・ヘルパーへの支援の引き継ぎ(支援手順書の共有、集中支援先への見学等)
- ・物件探し及び環境設定(新居内のレイアウト検討等)

新規通所先

- ・新規通所先の事業所探し
- ・通所先職員への支援の引き継ぎ(支援手順書の共有、集中支援先への見学等)
- ・通所先内の環境設定

集中支援での取り組み

☆次の支援者への引き継ぎ(学び)

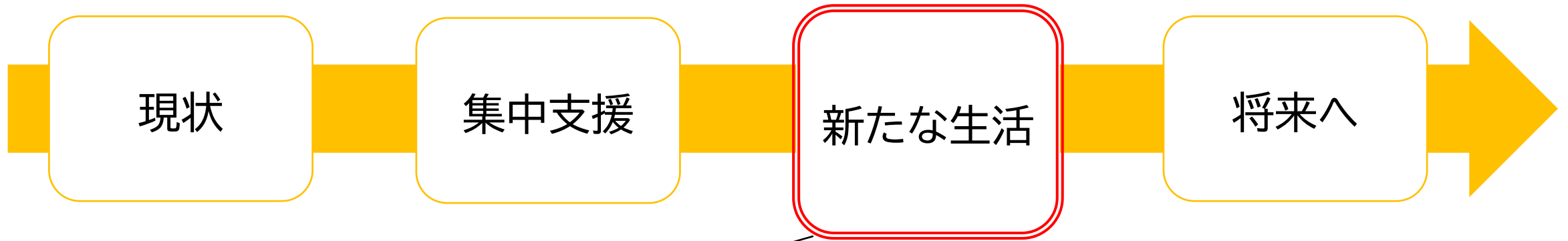


集中支援 = 本人への支援 + 支援者への支援が重要

- ・自閉スペクトラム症の特性理解の研修
 - ・直接アセスメントの情報共有
 - ・支援手順書を使った支援の説明
 - ・集中支援の現場での引き継ぎ
- 等々

また、集中支援の中での本人の行動(変化)から学ぶものも多くあるもの

集中支援から新たな生活へ



- ・集中支援の振り返りも踏まえて新たな生活のイメージをチームで共有
- ・本人が集中支援で学んだ「シンボル」「チャイムでの切り替え」「視覚的な情報提示」を活かす
- ・場所が変わっても「これまでと同じシステム」で「同じこと」を求められていることが分かるように
- ・生活場面、通所先ともに統一した支援のために支援手順書を作成

通所先での新しい過ごし

- ・集中支援で取り組んできたシステムをそのまま活用。
シンボルのみ変更して流れを変更することなく導入。



活動シンボル



休憩シンボル



食事シンボル



帰宅シンボル

支援手順書

・統一した支援のために支援手順書を活用

【散髪】



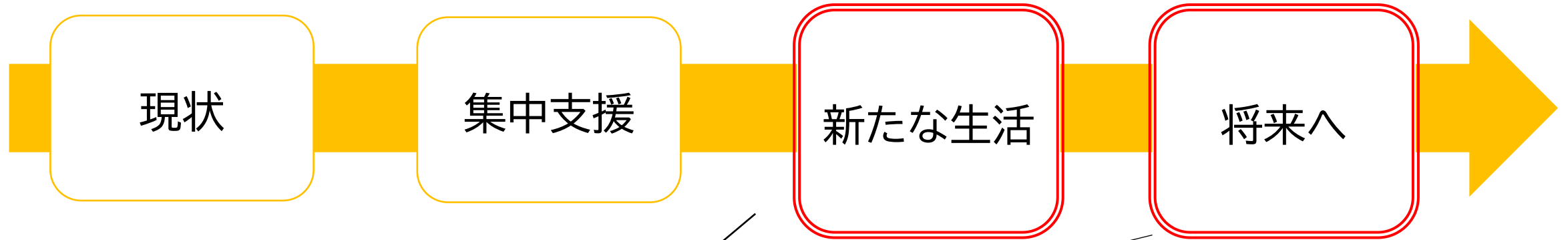
散髪シンボル

支援手順書 兼 記録用紙（アセスメントシート）

利用者名		サービス提供日(初回)	令和	5	年	10	月	8	日	作成者名	
事業所名		サービス名					時間			提供者名	

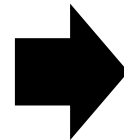
時間	活動	サービス手順	備考
13:00	準備	・シンボル準備（課題シンボル、散髪シンボル、休憩シンボル） ・「●●」理容師来訪。散髪セッティング（窓際あたり） ・課題を机に置く	昼食済ませておく
	活動	①チャイムを鳴らす ②課題シンボルを持ち課題机へ ③課題後はFBへ ④散髪シンボルを手に取り散髪スペース(いす)へ	
	散髪	①散髪シンボルのマッチング ②散髪 ③終えたら休憩シンボルを手に取り休憩エリアへ	●●さんへ支払い

新たな生活の安定・維持～将来への展望

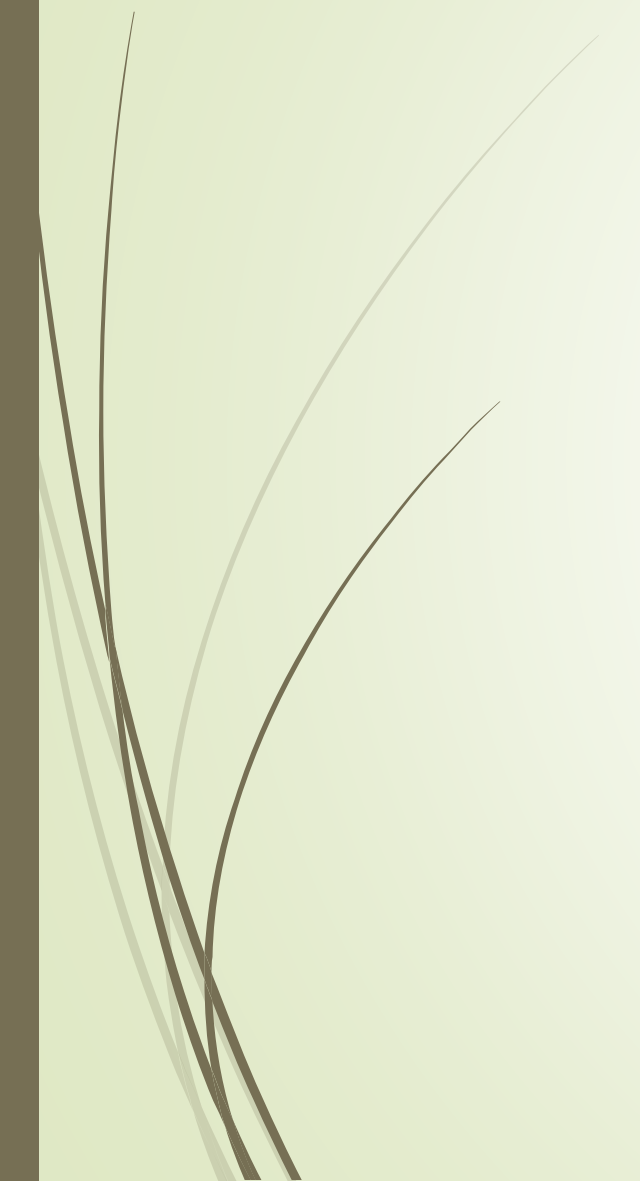


- ・座作業以外へのチャレンジ
- ・内科検診へのチャレンジ
- ・外出支援へのチャレンジ

etc...



- ・Aさんのチャレンジは続いていく...
- ・Aさんのサポートメンバーをさらに増やしながら、Aさんの地域生活をチームで支えていきます



ご清聴ありがとうございました